

## ところざわの文化財

### 小手指ヶ原の合戦と新田氏伝説

市内北野の埋蔵文化財調査センターの南側には、「白旗塚」という小さな塚があり、その傍らには「小手指原古戦場」と刻まれた石碑が立っています。この一帯は「小手指ヶ原」と呼ばれ、今から650年以上前にたびたび合戦が繰り返されました。

中でも新田義貞による鎌倉攻めの戦いは、印象的であったことが地名や伝承などから想像することができます。

当時鎌倉幕府の実権を握っていた北条氏は、その専制的な政治から各地で強い不満が起ります。そんな中、上野国（現在の群馬県）を本拠地とする新田義貞は、鎌倉幕府を倒すため立ち上がります。元弘3年(1333)5月8日、新田軍は一路南下し「いざ鎌倉」を目指しました。初め150騎ほどであった一行は、進むに連れて沿道の武士が加勢し最後には20万騎にも達したといわれています。

一方、敵の南下を防ぐために鎌倉を奔った幕府軍は鎌倉街道を北上します。そして双方は5月11日に小手指の地で激突するところとなり、合戦の火ぶたが切って落とされました。戦いは一進一退を繰り返す激戦となりましたが、徐々に新田軍の進軍を許すところとなり、5月22日ついに幕府軍は陥落し、鎌倉幕府は滅んだのです。

ところで市内には新田義貞にまつわる伝承が数多く残されています。前述した白旗塚は、源氏の一族である義貞が、その旗印である白旗を立てた場所、その北にある誓詞橋は、倒幕の誓いを取った場所といわれています。また久米の柳瀬川にかかる勢揃橋は新田軍が勢揃した場所と伝えられています。こうしたことからこの合戦が人々に、いかに強烈な印象を与えたかを物語っています。



石碑と白旗塚



▶特設ステージでは、たくさんの方が参加して力強い踊りが披露された「ところざわ旬の市」。(撮影/市民カメラマン・池田敬明) 5月28日(日)所沢車両工場跡地

## 街の写真館



▲「ドレミの丘公園」の開園式が行われ、荒幡小学校の児童の皆さんが、「ドレミの歌」を元気に披露しました。5月24日(水)ドレミの丘公園(荒幡)



◀美しいバラと庭に多くの人々が魅せられました。「これは何の木ですか」と熱心に尋ねる方も…「国際バラとガーデニングショウ」。5月19日(金)～24日(水)ノインボイス SEIBUドーム

## はっぴー ところ 野老 子

『エチオピア』という皆さんは、何を思い浮かべますか。マラソンランナーでアトランタオリンピックの金メダリストであるロバ選手の出身国であり、コーヒー豆の原産国としても有名です。

しかしエチオピアの現実、度重なる干ばつ・紛争等で『3秒に1人…』という言葉が物語るように、多くの人の命が犠牲となっているのです。3秒に1人とは、人が亡くなる時間の間隔のことです。

森田さんは、途上国の飢餓問題に取り組む『日本飢餓対策機構(NGO)』のエチオピア駐在スタッフとして5年間、井戸掘りや植林、学校建設などの援助活動を行い、この3月に帰国しました。

森田さんは、「エチオピアは、とても貧しい国ですが子どもたちの瞳は、輝いています。少ないものを分け合い、希望を持って生きているのです」と力強く語ります。この仕事はとてもやりがいがありますが、一方で支援のあり方に矛盾を感じることもあ



エチオピアの子どもと一緒に

### 子どもたちの笑顔にあいたくて

森田 哲也さん(西所沢在住)



るそうです。食料支援を継続しても中間搾取する人がいたり、ときには、働く意欲さえ奪い取ってしまったといった結果になることもあります。学校建設では、2校目の建設支援は行わないと決めていました。この後、村人たちが少しずつお金を集め、自分たちで建設に着手したことは大きな前進でした。

エチオピアではエイズがまん延し、子どもたちも犠牲になります。「エイズ患者の冷たい手を握って最期をみると、そこにはかける言葉さえありません」とその悲劇を語ります。

森田さんは、帰国後、生まれ育った所沢で飢餓問題を多くの人々に知ってもらおうと、『エチオピアの風を感じる集い』を市民文化センターミュージアムで行いました。飢餓の状況を1人でも多くの人に伝えることも大切な仕事であると感じているからです。

9月からは、アメリカのデューク大学で国際開発政策プログラムを学び、卒業後は再び開発支援の仕事に戻るといっています。森田さんの脳裏には、エチオピアで出会った子どもたちの笑顔が、はっきりと焼きついているのでしょう。

### 母の心

北秋津・増田 英子

小学生のころ、楽しみと言えは何といっても遠足。しかし、私には1つだけ憂鬱な事があった。それは母の作るお弁当である。当時、私のお弁当は、子どもが両手で抱えるくらいのおにぎりが2つ。中身は種ごう入った梅干し。友だちのお弁当を横目で見ると色とりどりの何ともかわいなおにぎり。おまけに、タコライスやぶらり黄色い卵焼き。私は、子どもながらに自分のお弁当を上げるのが恥ずかしくて、いつも隠しながら口へ放り込んでいた。そんな私にも来年幼稚園にあがる娘がいる。子を持つ親となり、初めて母のつくってくる大きいおにぎり。愛情そのものであった事に気づかされた。そして、私の娘は、初めてのお弁当をどんな顔をして食べてくれるのかしら…。

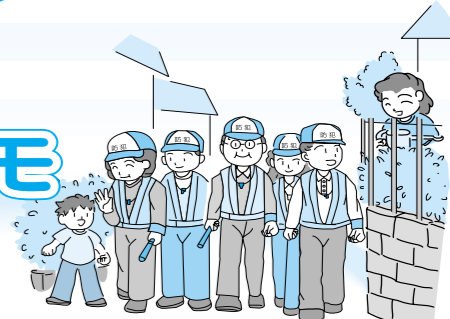
### 83歳の母の話

山口・桂 亜希子

「家が貧しくて、小学校へお弁当を持っていけない日もあったのよ。あるときは悪れたと嘘を言い、また別の日はお腹の具合が悪いと言って、みんなが食べるときに机にうつぶせになっていたので思い出すわ」泣き顔も見られたくなかったね。ふかしたサツマイモを一本だけ持っていたこともあるわ。秋の入れ替わり、しほりの間は、白米や梅干、漬物を持っていくことができた。うれしかった。おいしかった。8歳くらいから生きる大変さを知ってしまった気がするわ」

## みんなのな 広 場

### 一口メモ 防犯



～ひたくりにご用心～

ひたくりは、バイクに乗って後ろから近づき、自転車の前カゴのバッグを奪っていくというのが典型的なパターンです。

「防犯」の意識をしっかりと持つことが大切です。

また、銀行でお金を下ろした直後に狙われるといったことも少なくありません。そして、被害者のほとんどが女性です。

- ★★被害を防ぐためには★★
- ①自転車の前カゴには防犯ネットなどで覆いをする
- ②バッグは常に車道と反対側にしっかりと持つ
- ③人通りの多い明るい道を歩く
- ④できるだけ大金を持ち歩かないようにする

いつ、どこでひたくり被害にあうかわかりません。「自分は大丈夫」と油断をせず、

問い合わせ 防犯対策室(☎2998-9090・FAX2996-0015)

## ボランティア

### 【新所沢ボランティアグループ「ふくじゅうそう」】 ～「人とかがわること」を大切に！～

新所沢ボランティアグループ「ふくじゅうそう」は、昭和53年に誕生して以来、老人集会所福寿荘(緑町2-22-4)の運営にかかわりながら、地域に根ざしたボランティア活動を続けています。

主な活動には、季節感あふれる食事を心を込めて作り、地域の高齢の方々や障害のある方々を招いて開催する「会食会」や1人暮らしの高齢の方などにお弁当をお届けする「配食活動」、お茶と語らいのときを楽しむ「かたりへの会」などがあります。

また、高齢の方や障害のある方、そして子どもたちやその保護者などの地域の皆さんと一緒に楽しむ「みんなの交流会」なども開催しています。これは、毎年の恒例イベントにもなっています。

このほかにも、バザー用品やプレゼント用品等を作る手芸班などの活動もあります。この活動では、「できる人ができることを」をモットーに、「その場にいるだけでも楽しい」とたくさんの高齢者の皆さんが積極的に参加しています。

これらの活動を行うためには、資金確保も重要であり、献品などによる地域からの応援を得ながら行うバザーにも力を入れており、地域の皆さんからもとても好評です。



「ふくじゅうそう」のボランティアの行事には、誰もがホッとするような温かくて懐かしい空間があります。地域の皆さん、この活動に参加してみませんか。

問い合わせ 所沢市社会福祉協議会 (☎2925-0041・FAX2925-0040)

次回のテーマは「願いごと」です ▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「願いごと」▶締め切りは7月7日(金)必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係▶Eメール (アドレスa9024@city.tokorozawa.saitama.jp) も可。

### 汗っかきママ

小手指南・高橋 まさみ

### 誰でても

テーマ お弁当

